

**第208回米子医学会例会**

平成2年10月31日

**講師就任講演**

## 1. 肝疾患における肝コラーゲン代謝

第二内科 村脇義和

各種肝疾患で肝コラーゲン合成系および分解系を観察した。慢性活動性肝臓病では肝コラーゲン合成率の増加とともに肝コラーゲン分解系も上昇していた。肝におけるコラーゲン分解系では細胞外コラーゲナーゼよりも、コラーゲン分解カテプシンや細胞内新生コラーゲン分解活性の細胞内分解系がコラーゲン沈着により強く関与していた。また、コラーゲンの架橋形成に関与している lysyl oxidase と肝線維化病態との関連を検討した結果、肝での本酵素活性は肝コラーゲン量と密接に関連しており、その血清中の活性は prolyl hydroxylase やラミニン量などの他の線維化マーカーに比べて肝線維化をより鋭敏に反映していた。